

講義名	情報倫理（経済学科）		
科目区分	学科専門科目		
担当教員	三谷 哲雄		
開講期・曜日・時限	後期 木曜日 1時限	授業形態	
履修開始年次	1年生	単位数	2
		備考	

<b>主題と概要</b>			
履修にあたっての注意点 履修にあたっては、本科目の「シラバス」をしっかりと読んでください。加えて、「補足事項」（「その他」項目にある添付ファイル）の記載内容に十分に注意してください。「補足事項」には、授業の実施方針や履修における注意事項など、重要な内容を記載しています。必ず確認してください。			
インターネットの普及に伴い、電子メールでの迷惑行為、Webサイトでの詐欺行為、不正アクセスによる情報漏洩、著作権の侵害、文化摩擦など、日常生活において、これまでにならぬトラブルが生じている。このようなトラブルを避けるため、「情報倫理」では情報社会で生きるために必要な最低限の知識を身につけることをめざす。			

<b>到達目標</b>			
受講生は、情報社会における加害防止、被害防止のために情報に接する一人一人が求められる資質を取得することが目標となる。			

<b>提出課題</b>			
授業の進捗および内容に応じた複数回のレポート課題を予定している。			

<b>課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック</b>			
課題成果物は、可能な限り、授業中（課題提示の次の授業の開始直後）に、教員が一人ひとり個別回収する。各学生から回収する際に内容を概観し、寸評を行う予定である。全員の回収が終了したのちに、全体の講評を行う予定である。翌授業日の開始直後に、個々の内容を踏まえた総合的な講評を行う場合もある。			

<b>評価の基準</b>			
提出課題と定期試験により到達目標に対する達成度を評価する。点数は、授業参加度や提出課題に40%、定期試験に60%を目安として配分し、100点満点で算定する。			

<b>履修にあたっての注意・助言他</b>			
講義内容は、普段からよく見聞きする事柄も多いと思います。しかし、詳しいことまでは意外と知らないこともたくさんあります。また情報倫理に関する事柄は多岐にわたります。個々の事柄は簡単でも、非常にたくさん知識を修得しなければなりません。そのために、知っていることも、知らないことも、講義中はしっかりとメモを取ってください。知っているかどうかは後で判断し、自分の知識や経験を再確認してください。知らないことはこの機会に是非修得してください。			
まわりの学生に迷惑をかけるような身勝手な私語や行動は、他の学生の受講を妨害し、その権利を侵害することになるため、厳禁！です。静穏な講義環境を保持するためにやむを得ず、そのような学生は退室させます。			

<b>教科書</b>			
.インターネット社会を生きるための情報倫理 改訂版.	情報教育学会研究会・情報倫理教育研究グループ	実教出版	495円 978-4-407-34621-3

<b>プリント資料及び参考文献</b>			
必要な際にはプリント資料を配布する。参考文献は担当教員が指示する。			

<b>授業計画</b>			
01	イントロダクション		
02	.インターネット社会（情報社会）におけるの情報倫理の果たす役割（1）		
03	.インターネット社会（情報社会）におけるの情報倫理の果たす役割（2）		
04	.個人情報の大切さとその扱い方		
05	.知的財産を守るために（1）		
06	.知的財産を守るために（2）		
07	.知的財産を守るために（3）		
08	.ネットにおけるコミュニケーションとマナー（1）		
09	.ネットにおけるコミュニケーションとマナー（2）		
10	.情報社会における生活の変化（1）		
11	.情報社会における生活の変化（2）		
12	.情報社会における生活の変化（3）		
13	.インターネット社会で安全に過ごすために（1）		
14	.インターネット社会で安全に過ごすために（2）		
15	.インターネット社会で安全に過ごすために（3）		

<b>授業形態（アクティブ・ラーニング）</b>			
ア	PBL（課題解決型学習）		
イ	反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）		
ウ	ディスカッション、ディベート		
エ	グループワーク		
オ	プレゼンテーション		
カ	実習、フィールドワーク		

<b>準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間</b>			
授業計画を参照して教科書の予定箇所を予習し、講義終了後には当該箇所を復習すること。また情報倫理に関するニュース記事には目を通しておくこと。講義内容に関する下調べと事後確認に毎回4時間程度をかけることを目安とする。なお、レポート作成もその中に含む。			
<b>双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述</b>			
基本的には、講義形式である。講義中に、携帯端末（携帯電話や通信機能付きPCなど）を利用して、授業に関わるキーワードやニュース記事の検索など行う場合もある。また、講義に関わるテーマで受講生に発言を求めることもある。			

<b>実務経験の有無及び活用</b>			
<b>備考</b>			